

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

新年のご挨拶

賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之

新春を言祝ぎ謹んでお慶びを申し上げます
旧年中は大変お世話になりました 本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます

正月わかなを籠に入れてもて来たるうた

花がたみ めならぶ人の わかなもて

祝ふ宿には 千代もつみなん

賀茂真淵

(花籠を美しく並べた人よ、若菜持ちなさい。お祝いの家にいつも
摘んで行こう。)

令和元年五月一日に践祚された天皇陛下の御即位により、新しい御代が始まりました。皇位継承儀礼は十月二十二日に即位礼正殿の儀、饗宴の儀、十一月九日には国民祭典、十日の祝賀御列の儀、十一月十四・十五日の大嘗宮の儀、さらに明治神宮、伊勢神宮や神武天皇陵、孝明天皇陵、明治天皇陵、そして大正・昭和天皇陵への親謁の儀、十二月四日に宮中賢所で報告されて、世界の平和と国の平安の祈りを頂いております。日本全国では御即位の奉祝大会を開催して皇室を仰ぐ日本の繁栄を願いました。

当会ではその節目の佳き年に、賀茂真淵没後二五〇年を斎行し、静岡縣教育会編・唱歌「賀茂真淵」の歌碑を建立し、CDを制作しました。

御即位のお祝いは大正期にも見られ、宮司の岡部譲も次のような歌を奏上しています。

大正四年十一月十日午後三時三十分

天地(あめつち)に震(ふる)ひ地(つち)に

響(とよ)めり国民の

等しく唄ふ万歳の声

(天地が揺れ、地に響き渡りました。国民が
こぞって万歳を奉唱させていただきました。)

皆様におかれましては、令和二年がより
良き年になりますように、お祈り申し上げます。



賀茂真淵没後250年記念CD



賀茂真淵翁を知ろう (12) 荷田春満と浜松国学

寛文3年(1669)～元文元年(1736) 荷田春満(かだのあずまろ)は、江戸に出て、和学者として和歌を教え「万葉」などを講じていた。その一方で家伝の神道や神事方式教授し、神道者としても名が通るようになった。京都に帰った正徳3年(1713)からの10年間ほどは、東往西帰ともいえる多忙な日々で、この期に浜松とのゆかりができた。

諏訪神社神職杉浦国頭(くにあきら)は、社殿修造のために江戸に出ていた折、元禄16年(1703)に春満に入門し、翌年には五社神社神職森暉昌が入門した。春満は、杉浦国頭の人柄を見込んで姪の雅子(真崎)を嫁がせた。真崎15歳で国頭の妻となり、18歳の頃から11歳の賀茂真淵の手習いの師となった。

国頭、真崎を主として行われた「杉浦家和歌会」で名を連ねた人は70余名、和歌総数は2985首を数えた。こうして、詠歌・国学が盛んとなり、遠江の文化環境が高まった。国頭は浜松国学の祖とされた。

賀茂真淵翁を知ろう (13) 真淵 江戸に出る

真淵の学問的成長は杉浦国頭、森暉昌といった地元の人たちの学識を越すようになる。それに、自身の養子先の梅谷家では嗣子真滋の成長もあり“家”への責任を果たしたことから、元文2年(1737)江戸に出て古学の名を挙げる決意をした。

真淵が江戸に発つ際の逸話「浜松市史」

真淵が江戸に発つに当たり、吉田某に「きつと三間棒の肩輿に乗るほど出世してみせるぞ。もし、そうでなかったら二度と浜松には戻らない。」と、強い決意を告げた。吉田某は「人生はそう甘くない。乗るどころか三間棒の肩輿をかついで帰るはめにならないように。」と諭されたとある。

江戸に出た真淵は、まず荷田信名(春満の弟)宅に落ち着き、在満(春満の甥)とともに生活を始めた。その後、神田、上総、日本橋松島町、さらに日本橋小舟町(海産問屋村田春道(村田春海の父)宅など、3年間に五回、食客、同宿、家庭教師として転々とした。こうした中で、2年目に縣門十二大家の一人とされる小野古道が門人となり、46歳で茅場町に家を構えるに至った。

活動報告

課外研修 令和元年十月七日～八日

賀茂真淵翁の眠る東京品川の「東海寺」を訪ね、お墓参りをしてきました。
東海寺大山墓地には、開山 沢庵宗彭をはじめ江戸(昭和)にかけて活躍した偉人たちが眠っています。他に、赤穂藩主浅野長矩および赤穂義士の墓がある「泉岳寺」、徳川将軍家の祈禱所・菩提寺でもある「上野寛永寺」などを訪れました。



例大祭・碑除幕式

令和元年十月三十日

賀茂真淵翁没後250年記念事業として、当顕彰会は静岡縣郷土唱歌「賀茂真淵」の歌碑を記念館玄関先に建立寄贈し、名誉会長有馬朗人先生をお迎えして除幕式を執り行いました。



除幕式の様子

新年祭

令和二年元日

立志の丘から拝する
令和最初の初日の出です。



立志の丘からの初日の出

生誕祭・記念講演のご案内

賀茂真淵翁の功績を称え「生誕祭」を下記の要領で齎行します。

日時 2020年3月4日(水)

生誕祭 10:00～10:30

場所 縣居神社

記念講演 10:45～11:45

場所 賀茂真淵記念館

※会場50名定員のため
先着順とさせていただきます

講師 山下智之氏
(賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長)

演題 「賀茂真淵そして令和へ」